

令和3年度 第2回 ヨコハマ国際まちづくり推進委員会 会議録

日 時	令和4年3月7日(月) 13時00分～15時00分
開 催 場 所	市庁舎 18階共用会議室 なみき 17
出 席 者	小野崎委員長、加藤委員、小島委員、清水委員、陣委員、坪谷委員、中里委員、 パートン委員、細谷委員
欠 席 者	北川委員、鬼頭委員、小池委員、韓委員

議事(1) 令和3年度国際局事業報告

【主な意見】

- ・世界を目指す若者応援事業について、不安材料がある中での実施となっている。令和元年度に留学した学生は、途中で留学を辞めざるを得なくなったケースもあるかと思う。令和4年度に実施する場合は、過去のケースも踏まえ、学生が安心して留学できるよう支援してほしい。
- ・大学生の留学に関して、留學生の受入れが再開している国も多く、留学を予定している学生が増えている。特に6月ごろから留学する学生がかなり増えているため、大学においても、様々なサポートをしていく。
- ・日本語事業に関して、他の自治体の取組についても情報を入手しているが、横浜市は非常に先進的な取組を行っているといえる。全国的な会議において、地域日本語教育の問題として、ボランティアが外国の方々と接し、意に反してステレオタイプを強めてしまうこと、また、受入れのホスピタリティを高めすぎて外国人と対等な付き合いができなくなっていることなどが挙げられている。その中で、横浜市はボランティア・日本語教育者の養成に力を入れており、日本語支援に関する能力だけでなく、多文化共生の意識醸成も行いながら研修等を実施しており、この点が大変良い取り組みだと思う。
- ・日本語事業では、YOKE、日本語教育の専門家、企業、日本語学校、研究者及びNPO団体の方々が関わっており、それぞれの立場から、意見が出るため、大変参考とさせてもらっている。本当の意味での多文化共生が可能となるような日本語支援を目指して、取組を進めてほしい。
- ・中国人コミュニティにおいてYOKEの知名度はまだ十分ではない。
- ・外国人の間では、コロナに関する情報などは迅速にインターネット上で拡散されている。一方、ヘイトや誤った情報もたくさん広まっている。

議事(2) 令和4年度国際局予算概要について

【主な意見】

- ・国際交流ラウンジを磯子に開設することのだが、設置の具体的な時期や場所はどうなっているか。

議事(3) 報告事項、その他

【主な意見】

- ・ワクチンの接種券は在住外国人に遅滞なく届いているのか、接種率はどうなっているのか。
- ・ワクチンについて、外国人の接種率やトラブル等を研究の関係で調べている。全体としては、外国人は積極的に接種している。心配な点としては、非正規滞在の方への対応である。通報を恐れて打つことができないなどあるのでは。路上生活者への対応などと同様に、個別の事情を抱える外国人にも支援が届くようにしてほしい。
- ・横浜市では鶴見区、中区が多文化プランを先行して作成している。保土ヶ谷区のプランはどのようなねらいで作成するのか。
- ・国際交流ラウンジでは、外国人からワクチンの予診票が書けないという相談を数件受けた。HPには英語版の予診票があるので、活用している。
- ・中区の生活ガイダンスは現場での対応に加えて、ネットなどで自宅でも情報が確認できるようにすると良いと思う。
- ・ウクライナ情勢を巡る市の対応について、横浜市にはロシア人の方も多く住んでいるため、ヘイトクライムの

対象となることを危惧する。横浜を選んで住んでいるすべての外国の方々が、平和に暮らしていけるよう、情報発信、声明発出など努めていただきたい。

- 外国人留学生が新規入国できないということが続いた。この2年間はコロナによる入国制限に非常に困っていた。
- 横浜市がオデーサ市と姉妹都市提携を結んでいることは非常に意義のあるつながりだと思う。このたびの侵攻に関しても、他人事ではないということを常に念頭に置きつつ取組を推進してほしい。
- 少子高齢化、人材不足という危機的な状況の中で、優秀な外国人材に日本へ目を向けていただかなくてはならない。様々な業種、特に介護・建設などで人材が不足している状況なので、行政と民間が協力して、受入れの門戸を広げて、働きやすく住みやすいまちづくりをしていってほしい。